横光利一の代表作『旅愁』（三重県立上野高等学校 横光利一資料展示室蔵）

CHRONICLE OF MIE VOL.4
【文学編】

横光利一、作家が見た欧州と日本。

昭和十一年、作家・横光利一は新聞社の特派員として欧州を訪れる。その体験をもとに連載を開始した未完の長編小説『旅愁』では欧州と日本との比較論を展開し日本を考える手がかりを残している。

尾西康充 おにしやすみつ
人文学部・文化学科教授
専門は日本近代文学

昭和11年（1936）7月14日（巴里祭）、横光利一はパリのシャンゼリゼ通りにいた。例年なら革命記念日の祝賀ムードで人々の賑わう街がこの年は全国200の工場と35万人を超える労働者によるストライキのために閑散としていた。自動車に乗った若者たちが拳を振り上げて「フロンポピュレール（Front Populaire）」（人民戦線）と呼びかけると、通行人たちもそれに応えて拳を振り上げるという光景が街の至るところで見られた。ストライキの背景には、昭和11年（1936）4月にフランス社会党と共産党、さらに急進社会党が参加した人民戦線派が議会選挙に圧勝し、レオン・ブルムを首相とする左派政府が誕生していたことがあげられる。この余波をかりて、右派勢力を支持する群衆と路上で激突しながら、大規模なゼネストが敢行されたのであった。

このとき横光は「東京日日」「大阪毎日」両紙の特派員として、ベルリンオリンピック観戦をするためにヨーロッパを旅行中であった。ベルリンオリンピックはナチスが自己の威光を誇示するための絶好の機会として利用されていた。

横光はヨーロッパへの船旅の途中、上海では内山書店で魯迅と歓談し、台湾沖通過の際には2・26事件の第一報に触れる。高浜虚子や宮崎市定と船旅をともにし、パリでは岡本太郎と意気投合する。モスクワではアンドレ・ジッドと遭う。旅行中にさまざまな紙誌に送った通信文をまとめて帰国翌年の昭和12年（1937）に『欧州紀行』を刊行すると同時に、旅行体験を素材にした長編小説『旅愁』の連載を開始した。この小説は「東京日日」「大阪毎日」「文藝春秋」と掲載紙誌を替えながら、単行本として第4編までが刊行されたが、横光が昭和22年（1947）に病死したために未完に終わる。

『旅愁』では、マルセイユに上陸した途端に足が動かなくなった矢代が「日本がいとおしくてならぬ」という感情にとりつかれる。他方、マロニエの繁る石畳の街路を見た久慈は「日本にこれだけ美しい通りの出来るまでには、まだ二百年はかかるよ。僕らはここを見て日本の二百年を生きたんだよ」と語る。彼らに加えて、カトリックの信仰を抱く宇佐美千鶴子という若い3人の男女が『旅愁』の主人公である。彼らがパリのレストランやホテルの一室で繰り広げる議論は、ヨーロッパと日本との比較文化・比較社会をテーマとするものが多く、横光を代表とする戦前の知識人がどのような異文化体験をしていたのかがわかる。しかし「これが例えば日本で議論をするとなると、忽ち終局は必ず法網に触れて来るので、どちらも黙ってそれ以上の議論はうやむやの中に引っ込めてしまうか、さもなくば、ヨーロッパの論理へ樋をかけて水をその方へ引き流し、日本の歴史を外国のこととして戦い合う」という厳しい現実があった。また、フランスの人民戦線派の場合、労働者や農民の地位向上に関して知識人の働きが大きかったにもかかわらず、横光たちがそれを十分に学んだとはいい難い。

横光は戦後、加藤周一によって「我々の日本と人民とを『理性の道』の外へ導いた戦争犯罪人」として非難される。だが彼の思索の旅は今もなお、混迷を極める国際関係において、日本がおかれた位置を問いかえすための貴重な手がかりを与えてくれる。

横光　利一 よこみつ りいち
小説家
1898年～1947年

明治31年（1898）、福島県に生まれる。母は三重県伊賀市（旧阿山郡）東柘植村の出身。父の仕事の関係で、三重県伊賀市（旧阿山郡上野町）に転居、その後、大津市に移動するが、明治44年（1911）に三重県立第三中学校に入学し、再び伊賀市に住む。早稲田大学専門部政治経済科に進むが、長期欠席と学費未納によって除籍。川端康成たちとともに新感覚派の運動を展開、心理主義的な傾向を深めつつ、純文学における人間性の追求と通俗小説における物語の趣向との融合を目指した「純粋小説論」を主張した。代表作は『日輪』『蠅』『上海』『寝園』など。

横光利一文学碑。川端康成から横光利一へ贈られた言葉が刻まれている。（伊賀市上野公園内）

横光利一が13歳のときに入学した三重県第三中学校（現三重県立上野高等学校）。

卒業時に友人と交換したもの。添え書きには「白歩」の署名を使用している。（三重県立上野高等学校 横光利一資料展示室蔵）

中学時代の教科書類。横光利一の署名や落書きがみられる。日記や書簡類と共に保存されていた。（三重県立上野高等学校 横光利一資料展示室蔵）